

行雲流水

No.42 令和3年5月18日発行

グローバルな人材の育成を目指して

校長 寒河江 正人

先日、地域の方から「感謝の電話」を頂戴した。

「若木山公園のトイレ」を本校サッカー部の生徒諸君が「清掃ボランティアの地域貢献」をしてくれたことについての「お褒めの言葉」である。

地元の地域の方々から、本校の生徒が「認められ、褒められる」ということは、うれしい。校長として、「この上ない喜び」である。

生徒諸君と顧問の先生方に、心から感謝申し上げたい。ありがとう。

一方、「ボランティアプロジェクト」リーダーの須藤真央さんたちの呼びかけによって、「アルミ缶とペットボトルキャップの回収」のボランティア活動が進められている。アルミ缶は換金して、市内の介護施設に寄贈し、ペットボトルキャップは山形銀行さんを通して、発展途上国の子どもたちのポリオワクチンに役立てられる。5月20日（木）の放課後には、30分程度の「花植ボランティア」が実施される。「これからの季節、美しい花々で環境美化を図ろう」という生徒会の企画・第1弾である。

いずれも、本校の生徒諸君による「国際貢献・地域貢献」のボランティア活動である。これからの新たな時代を生き抜く若者には、「地球規模の視野で物事をとらえ考え、そして、自分の住む地域の地域で、自分にできることを具体的に活動する行動力」が必要だ。だからこそ、山形県教育委員会では、「第6次山形県教育振興計画（後期計画）」において、「グローバルな人材の育成」を目指しているのである。

そこで、今年度の「本校の学校教育目標」は、こう定めた。

「文武心・三道三立教育の推進による「グローバルな人材」の育成」である。

そして、「めざす学校像」は、

「まず、やってみよう！」を合言葉に、学び合い支え合う、勢いのある学校」である。

学校教育スローガンは、

シンク グローバル アクト ローカル ビー ア グローリアン
Think global, Act local. Be a glocalian.

(地球規模で物事をとらえ、自分の住んでいる地域で自分にできることを具体的に行動する人材・グローバルな人材を目指そう)